

花盛器	式個	同	農林省
議院本館正面玄関外ブロンズ枠及扉	式式	昭和五年度	大蔵省營繕財局
議院本館漆乾	式式	同	同
同 漆塗上	式式	昭和六年度	同
同 漆塗上	式式	同	同
議院本館大臣室外ブロンズ枠及扉	式式	同	同

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

學校近事 〔二九一七〕<sup>卷号</sup> S・六・一・二七<sup>年月日</sup>

○職員辭令

昭和五年十二月十五日

(各通)

敘正六位(宮内省)

同年同月十七日

除服出仕

同年同月二十三日

東京美術學校助手ヲ命ス 工藝化學教室勤務ヲ命ス

(各通)

依願解囑

講師 板垣 鷹穂  
同 田中 豊藏

教授 大島勝次郎  
同 津田 信夫  
同 清水 龜藏  
同 矢代 幸雄

助手 深瀬 嘉臣  
安倍 郁二

昭和六年一月九日

中華民國へ出張を命ス(文部省)

學校長 正木 直彦

正木〔直彦〕校長の支那出張

正木校長は文部省より中華民國へ出張を命ぜられ一月十日の夜東京驛より出發十二日神戸港にて乗船し一路上海を指して禹域の征途に上られたり 隨伴同行者は校長令息篤三學士と畫家渡邊晨敏の兩氏なり 出張の用向は外務省文化事業部の委囑にて先年東京に開催されたる支那唐宋元明四朝の古畫展覽會の第二回を今春東京に開くに就いて其の出版古畫を鑑閲せらるゝ爲にして民國の畫家美術家は勿論多數の學者や名士とも接見せらるゝべく自から日華親善の氣運を増進するに多大の貢獻を致さるゝことゝ想察せらる 民國現下政界の首腦人物たる蔣介石氏張學良氏とも會見さるゝ豫定との由なり 尙校長の歸還は二月下旬頃なるべし

北伊豆地方震災義捐金

北伊豆地方震災義捐金として金七拾五圓五拾四錢(内金參拾圓校友會より支出)を職員生徒一同の名義を以て社會局の手を経て〔昭和五年〕十二月十八日釀出の上送付せり(職員及生徒常務委員にて取計ひたり)

學校近事 〔二九一八〕 S・六・三・二七

○職員辭令

昭和六年一月十六日

(各通)

教 授 藤島 武二  
教 授 結城 貞松

敘從四位  
敘正七位(宮内省)

書 記 古田 坂松

同 年二月九日

敘勳五等授瑞寶章

教 授 森井 健介

敘勳六等授瑞寶章

教 授 大島勝次郎

同 年同月廿三日

除服出仕

教 授 朝倉 文夫

○正木〔直彦〕校長 一月初より中<sup>〔華〕</sup>民國へ出張せられ居たるが二月十一日無事歸京せられたり 旅行されたる方面は上海、杭州、蘇州、南京地方にて豫定なりし北平、奉天方面の行程は都合上見合せとなり南京迄にして還られたるため豫期より歸朝早くなりましたり

○今泉〔雄作〕講師 昨年秋頃輕き腦溢血症に罹り爾來療養を勉められ漸次快方になられ居たる處本年に入りて感冒に侵され肺炎となりしため遂に重體に變じ一月廿八日長逝さる 痛惜の至なり 高齡八十有三、同月三十一日下谷區中根岸の自宅にて告別式を舉行され多數の會葬者あり 尙同日宮内省より特旨を以て從三位に追陞相成たり 同講師は本校創立時に關係職員の一人たり 職員厚誼會より職員一同の名義にて籠盛生花一對を靈前に供へ弔意を表し多數會葬したり 因に同講師は明治十年佛國へ渡航し里昂府

私立ジュゼー學校に入塾して三年間佛語及び羅旬語を又印度錫蘭島の僧パンデタ・チレカ氏に従ひ三年間梵語を學び十三年よりは同國同府大學文學部に於て三年間羅馬希臘古物學講義を聽き十四年より更に二年間は梵語文學及埃及象形文字及古物學を學び十六年一月六日歸國す 同年五月文部省に御用掛の職を奉じ後文部屬として専門學務局詰となり次いで廿一年東京美術學校書記の職を兼ね翌年更に東京美術學校教諭(廿三年教授と改稱)を兼務し廿七年には京都市美術工藝學校長に任ぜらる 卅一年同校長を免ぜられて再び東京美術學校教授となり次いで卅三年東京帝室博物館部長に任ぜられ卅五年には古社寺保存會委員四十年よりは文部省の美術展覽會審査委員會委員大正二年には帝室技藝員撰擇委員等に擧げられ其他各種の調査委員會委員に擧げられて名聲愈々海内に高し 大正三年七月帝室博物館官制改正と共に帝室博物館鑑査官となり更に同年九月には同美術課長を命ぜられたるも翌四年には退官し五年には勅任待遇の帝室博物館評議員に列し又十三年よりは東京美術學校講師として考古學の講座を擔任して今日に至る

○朝倉〔文夫〕教授 同教授の御養母二月十三日郷里大分縣にて永眠されたるに付職員厚誼會よりは香奠を贈り代表者を以つて教授宅に持參し弔問したり

○久米〔桂一郎〕教授 同教授の嚴父文學博士久米邦武翁は實に九十有三歳の長齡なるも從來氣力衰えず讀書鉛槧に清閑を樂み居られたる處一月中より病氣に罹られ二月廿四日遂に遠逝され同月廿七日市外上大崎の自邸にて告別式を舉行ありたるに就き職員厚誼

會より生花一對（籠盛）を贈りて弔意を表し職員生徒多數會葬したり

學校近事 「三〇—一。S・六・四・二五」

○職員辭令

昭和六年二月廿三日

臨時本校依囑製作事務ヲ囑託ス

同年三月五日

除服出仕

同年同月十二日

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ス

同年同月十六日

學術研究ノ爲兵庫縣下へ出張ヲ命ス

同年同月十六日

(各通)

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣

同年同月三十一日

昭和五年度物品出納検査官吏ヲ命ス

同年四月一日

本校主任收入官吏書記筒崎謙齋取扱ニ係ル帳簿金櫃ノ検査ヲ命ス

生徒主事兼教授 鈴川 信一

助教授 田邊 孝次

同 西田 正秋

講師 金澤 庸治

學術實地指導ノ爲三重縣奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共十七日間ノ事

講師 齋藤 幸晴

雇 利部房太郎

本校生徒修學旅行ニ付三重縣奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共十七日間ノ事

同年同月六日

從六位 新納忠之介

本校生徒奈良縣下修學旅行ノ間臨時實地指導ヲ囑託ス

地方技師 安間 立雄

本校生徒京都府下修學旅行ノ間臨時實地指導ヲ囑託ス

同年同月八日

助教授 小泉 勝爾

學術實地指導ノ爲奈良縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共九日間ノ事

書記 古田 坂松

○正木〔直彦〕校長 三月十六日ヨリ同十九日迄大阪府及兵庫縣へ

出張セラレ又四月十日ヨリ十二日迄奈良縣へ出張サレタリ

○今〔和次郎〕講師 昨年三月ヨリ學術研究ノ爲歐洲ニ渡航中ノ處  
 本年一月歸朝サレタルニ付今四月ノ新學期ヨリ擔任授業開始サル  
 ○齋藤〔佳蔵〕講師 昭和四年十一月支那南京政府直轄藝術院ノ招  
 聘ニ應ジ渡支中ノ處昨年末歸朝サレタルニ付今氏ト同ジク新學期  
 ノ授業を開始サル

第四十回卒業證書授與式

三月二十四日午前十時より本校大講堂に於て第四十回卒業證書授  
 與式を舉行す。第一號鐘にて新卒業生入場著席、第二號鐘にて職員  
 及び參列舊卒業生著席、第三號鐘にて來賓著席、學校長の式辭に始  
 まり、新卒業生に卒業證書並に卒業成績優秀者に賞與を授與し、學  
 校長の告辭あり、尋で文部大臣の訓辭あり。

〔文部大臣田中隆三祝辭および卒業生總代彼谷清一答辭省略〕

來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次に退場し、職員及び新卒業  
 生は玄關前にて記念撮影を爲す。

卒業成績優秀に付き賞與者左の如し。〔省略。卷末表参照〕

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一七	〇	〇	一七
西洋畫科	三七	〇	五	四二
彫刻科	一〇	一四	〇	二四
木彫部	八	一	〇	九

建築科	六	〇	〇	六
圖案科	一〇	〇	〇	一〇
金工科	五	〇	〇	五
鑄造科	二	〇	〇	二
漆工科	二	〇	〇	二
圖畫師範科	二〇	〇	〇	二〇
合計	一一一	一七	〇	一二八

卒業生姓名及卒業製作目錄

日本畫科

少 女	本科	石川 之武(神奈川)
婦女圖	同	石川 大助(茨城)
甲州の秋	同	石橋 吉郎(富山)
撞球圖	同	橋本 明治(島根)
秋畫圖	同	細合 達三(群馬)
御宿風景	同	小野 靜雄(山口)
夏の黄昏	同	若林 景光(佐賀)
霜 晨	同	加藤 榮三(岐阜)
池	同	高尾 貢(福岡)
武藏野	同	八木 博(長野)
雪の淺草	同	山田 申吾(東京)
	同	藤川 武夫(香川)

(席次イロハ順)

蓮と子供	同	後藤多喜夫(廣島)	赤布を被れる婦人	同	國枝芳夫(岐阜)
動物園行樂圖	同	三浦文治(新潟)	婦人室にて	同	山田直次(京都)
道を歩む	同	宮崎有昭(群馬)	少女像	同	山下武夫(山口)
燒嶽初冬	同	東山新吉(東京)	Nの像	同	大和義男(山口)
大鹽風景	同	鈴木巳代二(茨城)	馬小屋の習作	同	松田文雄(三重)
西洋畫科			本を讀んでゐる	同	淵上滿男(長崎)
裸婦	自畫像	石川四郎三(神奈川)	友人H	同	小山鶴郎(東京)
裸婦	同	池田直輔(熊本)	ふたり	同	後藤俊春(福岡)
コスチューム	同	伊勢正義(秋田)	裸婦	同	手塚一郎(佐賀)
少年	同	服部保祐(群馬)	裸婦	同	安部義行(福岡)
風景	同	西孝親(熊本)	無衣仰臥	同	坂入辰雄(茨城)
裸體	同	新原俊吉(鹿児島)	少女坐像	同	佐藤敬(大分)
窓側	同	徳永周末(熊本)	司祭の像	同	木村捷司(北海道)
石膏と婦人	同	大貫松三(神奈川)	裸女	同	宮下琢郎(長野)
白糸露人M氏	同	尾田龍(兵庫)	青年	同	宮田武彦(東京)
仕事	同	渡邊正一(福岡)	婦人坐像	同	深山鎮男(東京)
コスチューム	同	川上圭次(大阪)	少女像	同	東義雄(大分)
倚かゝれる裸婦	同	門井壽(東京)	婦人像	同	廣澤環(新潟)
漁	同	谷内俊夫(石川)	浴衣	同	守田滋(熊本)
裸婦坐像	同	田代博(東京)	裸女二人	同	張舜卿(臺灣)
室内	同	内藤億(神奈川)	裸婦	特別學生	林學善(朝鮮)
ブロンズ	同	中村秀夫(香川)	裸婦	同	吳占壽(朝鮮)
二人の娘	同	長曾根八郎(三重)	横見る女	同	金塔煥(朝鮮)
競技前	同	村上徹之(廣島)	裸女	同	金應杓(朝鮮)

## 彫刻科

## 塑造部

男

一、女の首 二、立てる女

座れる女

子を負ふ女

座せる横向ける女

一、女の首 二、立女

一、立女 二、ポーズせる女

一、俺の首 二、ねた女 三、よりかゝる女

首

一、立てる女 二、首

男の首

一、女の立像 二、首

習作

一、男の首 二、女の立像

一、女の立像 二、同上

N君の像

一、首 二、トルソー 三、審判

一、女 二、友の像

一、男 二、首

一、女立像 二、無題

女の首

本科 服部不二之(山形)

同 大須賀 力(東京)

同 奥田 勝(奈良)

同 巽 一太郎(東京)

同 中野右左人(熊本)

同 黒田 嘉治(東京)

同 古賀 勝郎(佐賀)

同 佐土 哲二(東京)

同 喜田 三五(徳島)

同 三木 凱歌(和歌山)

選科 池田 晃(千葉)

同 陳 在 癸(臺灣)

同 緒方 敏雄(福岡)

同 岡本 金一(岡山)

同 金武 朝健(沖繩)

同 野々村一男(愛知)

同 矢崎 虎夫(長野)

同 山下 快吉(高知)

同 松尾二兵衛(佐賀)

同 丸山震六郎(新潟)

同 古屋 太郎(福岡)

立女

一、女の立像 二、首

男の首

木彫部

おさなご

浴女

ひからびた魚

彫刻ポスター

春風薫

無

果神

アンジのフランシス

鹿

建築科

住宅群

住宅群

Artist Home

Golf Club

海濱ホテル

小劇場

圖案科

服飾意匠考案

裝飾圖案

ポスター圖案

同 近藤 要(香川)

同 阿部 勝三(福岡)

同 金斗 一(朝鮮)

本科 萩原 省三(栃木)

同 田近 政二(富山)

同 辻堂善次郎(富山)

同 長沼 孝三(山形)

同 松原 正明(熊本)

同 紺谷 英儀(富山)

同 齋藤 誠一(新潟)

同 潮見 清(東京)

選科 中村 壽藏(東京)

本科 岡 百壽(東京)

同 吉村 順三(東京)

同 椿 宣勝(宮城)

同 佐藤 誠一(埼玉)

同 高梨 衛雄(神奈川)

同 中原 信之(岡山)

本科 西方 勝雄(宮城)

同 小川 洗二(茨城)

同 高橋 信夫(神奈川)

同

同

同

玻璃製各種工藝圖案	同	坪井 鶴吉(香川)	獅子圖手箱	本科	彼谷 清一(富山)
禮拜堂內裝飾圖案	同	中田 滿雄(岐阜)	草花模様寶石箱	同	長瀬 得藏(東京)
染織刺繡衝立圖案	同	二見 源治(北海道)	椿模様小屏風	選科	影山 治見(高知)
船室內裝飾圖案	同	芥川 猛次(静岡)	花鳥文飾筥	同	吉田 隆二(京都)
壁面裝飾圖案	同	北川 雄三(京都)	圖書師範科		
マネキン舞臺考案	同	疋田 三郎(東京)	裸婦	(西洋畫)	石川 一郎(福島)
客室及金屬用具圖案	同	關 力(茨城)	少女坐像	(同)	石野 安親(東京)
裝幀各種圖案	特別學生	李 順石(朝鮮)	室內裸婦	(同)	石本 秀雄(長崎)
金工科			着衣	(同)	西村 義人(熊本)
彫金部			習作	(同)	豊田 一男(群馬)
銀瓶	本科	織田 愼一(東京)	赤椅子の裸婦	(同)	陳 慧 坤(臺灣)
銀製香爐	同	竹内元之助(三重)	女二題	(日本畫)	大泉 米吉(宮城)
笹模様小箱	同	内藤 四郎(東京)	裸體	(西洋畫)	大嶽 利藏(愛知)
果物盛器	同	福田 隆(三重)	コスチューム	(同)	岡部文之助(北海道)
壺	同	後藤 學一(香川)	曇り日の築地	(同)	岡田 清一(茨城)
鍛金部			室内裸婦	(同)	瓦井 好光(栃木)
果物盛器	本科	鷺田 存(福井)	海村	(日本畫)	金成 勇夫(福島)
喫煙室の照明	同	矢部 國士(福島)	裸婦習作	(西洋畫)	高柳 種行(佐賀)
鑄造科			椅子によれる裸女	(同)	瀧井 金茂(滋賀)
噴水	本科	田中 武雄(東京)	習作	(同)	内倉 信次(東京)
墓標	同	近藤 義和(新潟)	コスチューム	(同)	益田 久方(宮崎)
公園の水呑	同	安倍 貞世(岩手)	横はれる裸婦	(同)	澤 健二(愛知)
ラヂオの裝飾	同	清水 巖(神奈川)	眠れる裸女	(同)	平田 興二(福岡)
漆工科			習作	(同)	柴田 善登(福岡)

風景

(同)

鈴木 傳 (北海道)

新入學生姓名

日本畫科第一學年(イロハ順)

井上 迪彦	服部幸太郎	岡部 秀
荻原 勝衛	若海 鍋吉	河合 哲二
加藤 幹一	勝木 實	金湖 隆善
高山 辰雄	田中 憲之	辻 勝喜
上田 隆一	倉光 博	藤谷 正春
小堀 神風	江川 禎英	青木 義雄
守屋 正	森本 醇一	鈴木 英二
岩田 榮	伊藤 彰	池田 快造
池田 輝之	橋本 正躬	富山 良次
沈 亨 求	李 石 樵	大山 英夫
大島 士一	川田恒之輔	香月 泰男
金子 五郎	河口 正喜	高木 周平
武田 儀助	根守 悅夫	中西 次郎
中川 正雄	永田 精二	中村 立行
中久木康夫	村田 保三	上原 誠
上島 長健	江守 龜男	野口 德次
野末 恒三	藥師寺孝太郎	山中清一郎
藤岡俊一郎	船越 達仁	寺田 春一
赤津 實	齋藤 齋	里見 明正

彫刻科塑造部第一學年(イロハ順)

榊 克文	城 信義	澁谷 元彦
本儀 信	須藤 清彦	須澤 鴻
杉山 一正	杉山 卓	鈴木 貞三
石田 尙友	橋本 陸男	新田 實
千田士乃武	川村 政雄	吉田 芳夫
瀧 一夫	上之園 茂	能美八重夫
柳原 義達	松本虎之助	古池 恒雄
澤柳 善人	佐藤 那輔	水船 六洲
峯 孝	清水 勲	榎本 國吉
關 長造		

彫刻科塑造部特別學生第一學年

蔣 玄 怡

彫刻科木彫部第一學年(イロハ順)

伊藤三子雄	井丸 哲雄	石川 義夫
法元 六郎	高橋 英吉	中島 敦
山内 皓臣	佐伯留守夫	
伊原 清	富田 哲輔	小川 正治
大塚 常雄	大澤 三郎	田村 正夫
齋藤 泰三		
稻垣耕四郎	二宮 一郎	戸川 慎一
和田 義三	吉村 倭一	田中 雄三

圖案科第一學年(イロハ順)

大谷 文雄 山口 茂 山本 元夫  
 前田 弟二 増田正次郎 福永 正一  
 三浦 重雄 島 元次 須藤 周雄  
 杉浦 發夫  
 圖案科特別學生第一學年  
 盧 景 光 李 顛 塵

金工科彫金部第一學年(イロハ順)

飯田 正美 吉村 博 村田 興一  
 松尾 忠次 島崎正二郎

金工科鍛金部第一學年(イロハ順)

多田 貞三 中井 武之  
 金工選科鍛金部第二學年(イロハ順)

井尾 敏雄 小川 正 松原 春雄

畑 正夫 原 直陳 新川 太郎

中堀 正孝 桑田忠之助 柴田 爲藏

鹽塚 豐技

漆工科第一學年(イロハ順)

奧田 俊次 笠木敦次郎(郎) 武内 信弘  
 小島理吉郎 笹田 博 平野 清吉

圖畫師範科第一學年(イロハ順)

伊東 正明 伊川 藤義 板山 啓三  
 井手 資一 原田 肇 濱田九一郎  
 濱田房次郎 所 榮次 加藤 正雄

川口 雄男 田中 鐵夫 内村 誠  
 工藤 靖彦 熊田 良輔 山田 光春  
 町田 茂雄 小木曾和夫 合澤 三郎  
 董名 芳夫 佐藤 正 坂本 幹男  
 水田 謹爾 宮村他家次 志賀福太郎  
 須貝 寛一

本年度入學志願者調

科名	應募人員	受験人員	募集人員	入學許可
日本畫科	一〇九	一〇〇	二〇	二一
西洋畫科	四二一	三九五	四二	四五
彫刻科塑造部	三〇	三〇	二〇	一九
同 木彫部	一四	一三	一〇	八
建築科	七三	五八	七	七
圖案科	一〇一	九三	一五	一五
金工科彫金部	一五	一三	五	五
同 鍛金部	四	四	三	二
鑄造科	二四	二一	七	七
漆工科	一三	一二	七	六
計	八〇四	七三九	一三六	一三五
選科及特別學生				
科名	應募人員	受験人員	募集人員	入學許可
金工科鍛金部	八	五	二	三
選科第二學年				
西洋畫特別學生	四	三		〇



昭和六年四月十五日

敘正七位

助教授 坂口 朧

同年同月廿一日

助教授 松田 義之

助教授 長野 新一

學術實地指導ノ爲京都府大阪府愛知縣奈良縣へ出張ヲ命ス 但往復共十日間ノ事

同年四月二十三日

教授 六角注多良

助教授 山崎覺太郎

學術研究ノ爲山形縣下へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同年同月二十四日

助教授 小泉 勝爾

助教授 常岡 文龜

學術研究ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

同年同月二十五日

磯矢 陽

東京美術學校助手ヲ命ス 漆工科勤務ヲ命ス

同年同月二十七日

教授 六角注多良

助教授 山崎覺太郎

山形縣へ出張ノ序ヲ以テ依囑製作事業ニ關シ福島縣へモ出張ヲ命ス 但滞在一日間ノ事

同年五月一日

學校長 正木 直彦

教授 六角注多良

教授 津田 信夫

助教授 海野 清

講師 香取秀治郎

工藝審査委員會委員被仰付 內閣

第二部員ヲ命ス 商工省

同年同月五日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被仰付 內閣

教授 藤島 武二

學術研究ノ爲和歌山縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三週間ノ事

同年同月十三日

教授 平田 榮二

助教授 三浦 直政

學術研究ノ爲新潟縣下へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

同年同月十四日

教授 水谷 鐵也

教授 津田 信夫

敘勳五等授瑞寶章 賞勳局

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲石川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

生徒主事補 高橋 吉雄

本校生徒所澤飛行場見學ニ付埼玉縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日  
間ノ事

同 年同月二十八日

助教授 坂口 朧

給二級俸 文部省

同 年同月二十九日

助教<sup>〔授〕</sup> 坂口 朧

任東京美術學校教授

敘高等官六等 内閣

同 年同月三十日

依願免本官

教授 坂口 朧

○正木〔直彦〕校長 五月十九日より二十四日に至る間美術上の件  
にて石川縣及大阪府に出張せらる 又二十五日より二十八日迄四  
日間麴町區永田町文部大臣官邸にて開會されたる高等師範學校長  
會議に出席されたり

○今〔和次郎〕講師 昨年春歐洲に渡航見學中の處本年一月歸朝さ  
れたるに付今四月の學期より本校擔任の授業を開始されたり

○齋藤〔佳藏〕講師 昭和四年より中華民國政府直轄の杭州藝術院<sup>〔杭〕</sup>  
の招聘に應じ渡支中の處契約期限を了り歸朝されたるに付四月の  
學期より本校擔任の授業を開始さる

○朝倉〔文夫〕教授 歸郷展墓の爲め請暇を許可され五月六日大分  
縣大野郡上井田の郷里に赴き同月十五日歸京されたり

○坂口〔朧〕助教授 今春來腦溢血症にて久しく病臥靜養中の處今  
回引退の願を差出されたるに付教授に陞任の上五月三十日依願免  
官となりたり 同氏は本校に勤続すること二十五年餘に及び鑄造  
科の實習授業に就きて多大の功勞ありたる人なり

學校近事〔三〇—三。S・六・七・三〕

○職員辭令

昭和六年六月三日

教授 川合芳三郎

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラン、オフキンエー、ク  
ロンス」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル 賞勳局  
鑄造科兼務ヲ命ス 助手 内藤 春治

圖案科工藝製作法（鑄金）擔任兼務ヲ命ス 助教授 高村 豐周  
講師 杉田 精二

鑄造科鑄金製作法擔任ヲ命ス 鑄造實習  
擔任如故 同 年同月十八日

靜岡縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事 講師 齋藤 幸晴

○沼田〔勇次郎〕教授 京都高等工藝學校ヨリ講師ヲ囑託サレ一學  
期間ニ二日程京都ニ出向セラレ主トシテ同校窯業科ノ陶磁器製作

實習ヲ指導サルル事トナレリ

○和田〔季雄〕助教授 昭和四年ニ文部省在外研究員ヲ命セラレ同年二月廿七日東京ヲ出發シテ渡歐シ佛蘭西及伊太利ニ於テ滿二ヶ年研究ニ從事サレ六月十八日箱根丸ニテ神戸着翌朝十時十五分東京驛着車無事歸朝サレタリ

學校近事 〔三〇—四。 S・六・一〇・五〕

○職員辭令

昭和六年六月二十四日

教授 六角注多良

依囑製作事業ニ關シ福島縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

助教授 松田 義之

學術研究ノ爲千葉縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同 年同月二十七日

給二級俸 文部省 書記 古田 坂松

同 年七月一日

生徒主事兼教授 鈴川 信一

陞敘高等官五等

教授 田邊 至

陞敘高等官六等 内閣

同 年同月三日

東京美術學校服務

陸軍歩兵少佐 石川 吉郎

本校生徒野營演習ニ付静岡縣富士裾野へ出張ヲ囑託ス 但往復共四日間ノ事

生徒主事 鈴川 信一

助教授 和田 季雄

本校生徒野營演習ニ付静岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

教授 渡邊 啓三

助教授 田邊 孝次

生徒主事補 高橋 吉雄

本校生徒野營演習ニ付静岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

講師 齋藤 晴幸〔幸晴〕

雇 古宇田正雄

本校生徒野營演習ニ付静岡縣富士裾野へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月十一日

敘勳五等授瑞寶章 教授 松岡 輝夫

敘勳七等授瑞寶章 賞勳局 元教授 坂口 朧

同 年同月十五日

敘從六位 生徒主事兼教授 鈴川 信一

敘正七位 宮内省 教授 田邊 至

體操及彫刻實習擔任並教務掛兼勤ヲ免ス 彫刻科彫刻實習擔任ヲ命ス 助教授 和田 季雄

命ス

同 年同月廿七日

生徒主事 鈴木 信一

本校生徒水泳狀況視察ノ爲千葉縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

同 年八月十日

瀨谷 義廣

東京美術學校雇ヲ命ス 會計掛ヲ命ス

同 年同月三十一日

教授 島田 佳矣

學校近事 〔三〇—五。S・六・十一・二〇〕

○正木〔直彦〕校長 七月十一日より北海道函館、札幌、小樽、釧路諸地方及秋田、青森二縣下等に出張せられ同月廿七日歸京され

○職員辭令 昭和六年九月十五日

紋正四位 宮内省

教授 岡田三郎助

たり 出張の主要件は豫て國際觀光委員會委員を仰付られ居たる爲め今回同會委員多數と同伴して前記諸地方に就て視察せられたるなり

圖書師範科理事ヲ命ス

助教授 三浦 直政

○矢代〔幸雄〕教授 今春獨逸、匈牙利に於て開催されたる日本畫展覽會の用務を帯びて昨年十一月より歐洲に出張を命ぜられ滞在中の處用務を果され七月廿六日西比利亞線經由にて歸朝されたり

圖書師範科理事ヲ免ス

助教授 松田 義之

○久米〔桂一郎〕教授 八月廿一日出發墓參の爲め郷里佐賀市に旅行されれ月末歸京せらる

同 年同月廿八日

教授 島田 佳矣

○島田〔佳矣〕教授 相續人たる令嬢文子氏八月廿一日死去せられ同月廿四日午前中芝區伊皿子町導往寺に於て告別式を營まる 職員厚誼會より生花一對を贈り靈前に供へたり

學術研究ノ爲島根縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

教授 島田 佳矣

○田邊〔至〕教授 八月初より長野縣上水内郡野尻湖畔に赴き滞在

學術研究ノ爲山梨縣へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

助教授 水谷 武彦

同 年同月三十日

依囑製作事業ニ關シ大阪府及富山縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

講師 鈴木 清

同 年同月三十日

同 年同月三十日

同 年同月三十日

同 年同月三十日

同 年同月三十日

除服出仕

同 年十月一日

五級俸下賜 文部省

國立公園委員會委員被仰付 内閣

福島縣及宮城縣へ出張ヲ命ス 但往復共七日間ノ事

同 年同月三日

敍勳六等授瑞寶章 賞勳局

同 年同月五日

書記 佐藤 重吉

教授 小堀 鞆音

校長 正木 直彦

書記 筒崎 謙齋

書記 古田 坂松

教授 六角注多良

同 小林 萬吾

同 津田 信夫

同 田邊 至

助教授 海野 清

帝國美術院美術展覽會審査員被仰付 内閣

同 年同月六日

故教授 小堀 鞆音

敍正四位 十月一日

特旨ヲ以テ位一級追陞セラル 宮内省

同 年同月七日

助教授 田邊 孝次

學術研究ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

○小堀〔鞆音〕教授 九月二十日前後頃より背部に癰を發せられ赤

十字社病院に入院して治療せられしも頗る惡症のものにて遂に切

開手術を受けられしが奏功せず病勢俄に革まり十月一日午後零時

十七分を以て溘焉卒去されたり 享齡六十八歳 現代畫壇有數の

老大家碩匠たる小堀教授の長逝は寔に痛惜すべきの至なり 越え

て七日午後下谷區谷中齋場に於て盛大なる告別式を舉行され本校

職員一同より生花一對を靈前に供ふ 遺骨は多摩墓地に埋葬す

法號は天竺院無聲大音居士と云ふ 告別式當日の朝勅使駒澤の邸

宅に臨み幣帛を下賜せらる 死して餘榮ありと謂ふべし

○北村〔耕造〕講師 宮内技師たる同氏は十月一日高等官一等に陞

敍せられ從來の内匠寮工務課長を免し新設されたる内匠寮臨時帝

室博物館造營課長を命ぜられたり

○古田〔坂松〕書記 會計掛勤務の同書記は今夏來直腸癌を病み六

月中帝大病院に於て手術を受け經過は良好なりしも爾來病臥四ヶ

月に及び漸次衰弱を増し遂に十月三日午前三時死去されたり 職

員厚誼會より香奠一封を贈り同月五日市外巢鴨町の居宅にて告別

式を擧げ遺骨は郷里名古屋市に歸葬さる

○本年は舊文部省美術展覽會と今の帝國美術院の展覽會とを連續し

て二十五周年に及ぶを以て十一月一日を以て本校大講堂を會場と

して盛なる記念式の舉行あり 其功勞者として美術院の幹事たる

正木〔直彦〕校長、院の會員たる高村〔光雲〕名譽教授、岡田

〔三郎助〕、和田〔英作〕、川合〔芳三郎〕三教授は夫々金杯壹個

を賞勳局より賞賜せられたり 既に物故されたる小堀〔鞆音〕教

授は特に十月一日附を以て同じく金杯壹箇を賞賜さる

○十一月四日本校設置記念式舉行の際本年勤續二十五年に達せられたる沼田〔勇次郎〕、石田〔英一〕、森田〔龜之助〕三教授及び文庫主任北浦〔大介〕書記の四氏に職員厚誼會より感謝狀並に記念品（料金壹封）を贈呈して永年の勤勞を犒ひ且以て祝賀したり

○故小堀軻音教授履歷〔長文につき省略。〕

本校設置記念式舉行

十一月四日本校設置記念式並に沼田教授、石田教授、森田教授、北浦書記の在職各二十五年の祝賀式を舉行す、因に式次第左の如し

一、午前九時三十分第一號鐘にて生徒一同大講堂（北口より出入のこと）へ參集著席

一、第二號鐘にて職員、卒業生大講堂へ參集

一、學校長式辭

一、沼田教授外職員三名へ祝賀記念品（目錄）贈呈

次に餘興に移る

一、舞樂 曲目 一、振銚 二、蘭陵王 三、納曾利

右了りて茶菓を呈す

學校近事〔三〇一六。S・六・十二・一五〕

○職員辭令

昭和六年十一月七日

教授 矢代 幸雄

紋勳六等授瑞寶章 賞勳局

同年同月十二日

教授 平田 榮二

助教授 三浦 直政

學術研究ノ爲鳥取縣熊本縣福岡縣長崎縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同年同月二十日

同

助教授 海野 清

學術研究ノ爲京都府へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

助教授 松田 權六

同 山崎覺太郎

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

同年同月二十五日

學校長 正木 直彦

帝國美術院院長被仰付 内閣

帝國美術院幹事被免 同

學校近事〔三〇一七。S・七・一・三一〕

○職員辭令

昭和六年十一月廿五日

教授 矢代 幸雄

補帝國美術院附屬美術研究所主事 文部省

學校長 正木 直彦

帝國美術院附屬美術研究所主事ヲ免ス 文部省  
同 年同月三十日

臨時囑託 高山 光明  
同 酒卷 洵

用務濟ニ附臨時囑託ヲ解ク  
同 年十二月八日

教授 矢代 幸雄

帝國美術院幹事被仰付 内閣

教授 久米桂一郎

依願帝國美術院幹事被免 内閣

同 年同月十七日

助教授 松垣 靄雄

除服出仕

同 年同月二十四日

學校長 正木 直彦

佛蘭西國政府ヨリ贈與シタル「コンマンドール、ド、ロルドル、  
ナシヨナル、ド、ラ、レジヨン、ドノール」勳章ヲ受領シ及ビ佩  
用スルヲ允許セラル 賞勳局

昭和七年一月九日

教授 清水 龜藏

學術研究ノ爲廣島縣下へ出張ヲ命ス 但往復共七日間ノ事  
同 七年一月二十日

平福 貞藏

任東京美術學校教授 紋高等官四等 内閣

十級俸下賜 文部省

教授 平福 貞藏

日本畫科日本畫實習授業擔任ヲ命ス 學校

教授 平福 貞藏

○正木〔直彦〕校長 國立公園委員會委員の用務を帶び十二月廿八  
日出發にて九州地方長崎、熊本、鹿兒島、宮崎、諸縣内へ出張せ  
られ新年一月十日歸京されたり

○松岡〔輝夫〕教授 従前千葉縣下に在籍の處今回東京府に本籍を  
移轉さる 尙同教授住所は小石川區雜司ヶ谷町百二十五番地なり  
しに地番の更正にて百二十二番となりたる旨屈出<sup>届</sup>られたり

○松垣〔靄雄〕助教授 十二月十日實母佃氏鳥取縣寶木村の實家に  
て死去され同地に急行葬儀を擧げらる 職員厚誼會より香奠を贈  
り哀悼したり

○安倍〔郁二〕助手 十二月二十二日任期滿了して退職さる

○羽野〔禎三〕助手 一月十三日田丸信俊氏長女と結婚されたり

### 関連事項

① 正木直彦の渡支、日華古今名画展覧會

大正十年頃から始まった日中美術交流運動、特に日華連合絵画展  
の開催や、大村西崖、正木直彦らの活躍については既に記したが、昭  
和三年の唐宋元明名画展覧會(395頁参照)以後も種々の障害あるなか  
で鋭意交流の試みが続けられた。正木校長は美術界の代表者として  
積極的に活動し、文庫主任の北浦大介は実務担当者として奔走。文